

60th Anniversary

市制施行60周年記念
韮崎市勢要覧

夢と感動のテーマシティ にらさき

美しく、人・地域が輝く 未来へのものがたり

山梨県
韮崎市
武田の里・サッカーのまち“にらさき”

つむ
夢を紡ぐ

未来を織りなす風・林・火・山



夢を紡ぐ^{つむ}

未来を織りなす風・林・火・山

日本の名峰を四方に仰ぐ葦崎。

この山紫水明の地には、連綿と「夢」を育んできた

特別な歴史があります。

戦国の雄、甲斐武田家が生まれその繁栄を夢見た鎌倉 戦国時代、

交通の要衝として栄え、人々の希望と活気にあふれた江戸時代、

小林一三をはじめとする、夢と情熱にあふれる人物を輩出した近代、

サッカーの名門、葦崎高校の活躍が多くの子どもたちに夢を与えた現代、

そして今、数多の「夢」を受け継いだ葦崎市は

市民と行政とがともに手を取り、

未来を織りなす魅力的なまちづくりをはじめめています。

この市勢要覧は、葦崎の夢を紡ぐ

風・林・火・山の四つの章で構成しました。

時代を超えて「夢」が息づく、葦崎の魅力を感じてみませんか？

60th Anniversary

市制施行60周年記念
韮崎市勢要覧

夢を紡ぐ^{つむ} 未来を織りなす風・林・火・山

CONTENTS

04 風の章 ～笑顔^{えがよ}を紡ぐ～

「サッカーのまち」

- 04 サッカーのまち韮崎に爽やかな風が吹く
- 06 内藤市長 夢メッセージ
- 07 生涯スポーツ「サッカー」がまちを元気にする
石原克哉選手から子供達へのメッセージ

08 夢と感動のテーマシティにらさき 1 誰もがいきいきと輝けるまちづくり

10 林の章 ～時代^{とき}を紡ぐ～

「武田の里」

- 10 甲斐武田家の祖 武田太郎信義公ゆかりの地
- 11 終焉を見守った悲劇の城

「街道のまち」

- 12 韮崎宿の面影
- 13 「のれん」のまちなみ

14 火の章 ～誇り^{こほり}を紡ぐ～

「情熱を育むまち」

- 14 希代の実業家 小林一三
- 15 韮崎出身タカラジェンヌ神麗華さんと
一三ゆかりの地を歩く
- 16 保阪嘉内と宮沢賢治
- 17 遺跡発掘にかけた情熱 志村滝蔵
縄文王国 韮崎

18 夢と感動のテーマシティにらさき 2 笑顔行き交う賑わいのまちづくり

20 山の章 ～いのち^{いのち}を紡ぐ～

「夢を涵養する大地」

- 20 韮崎を見守り続ける七里岩と八ヶ岳
- 21 武田の里に咲き誇る、孤高の桜
- 22 花咲き競う 麗しのふるさと
- 23 名峰に抱かれし 豊饒の大地
穂坂町ぶどう

24 夢と感動のテーマシティにらさき 3 美しい景観を未来につなぐまちづくり

26 韮崎市60年のあゆみ

38 花咲き 夢咲く にらさきマップ

韮崎市のイメージキャラクター「ニーラ」は
夢がいづく韮崎のまちが大好き！
特技は魔法で人々の夢を叶えること。
各章で夢のポイントを解説するよ。



風

笑顔^{えがよ}を紡ぐ



林

時代^{とき}を紡ぐ



火

誇り^{こほり}を紡ぐ



山

いのち^{いのち}を紡ぐ

夢を紡ぐ^{つむ}
未来を織りなす風・林・火・山

風の章

～笑顔を紡ぐ～

サッカーのまち

葦崎市民の誰もが認める「サッカーのまち 葦崎」。
そのなりたちには、全国サッカー選手権大会で3度の準優勝を誇り、中田英寿氏をはじめ、多くのJリーガーを輩出してきた名門 葦崎高校の、大正時代から続く長い栄光の歴史がありました。

サッカーのまち葦崎に 爽やかな風が吹く

葦崎とサッカーの関わりは、大正時代にまでさかのぼります。大正12(1923)年4月、北巨摩郡地域住民の熱意から誕生に至った葦崎中学校(現葦崎高校)の初代校長に着任した堀内文

いと、サッカーを校技に定めました。これが、葦崎のサッカーの歴史の始まりです。

その後、指導者や選手の努力により全国にその名を馳せる強豪となった葦崎中学。太平洋戦争による中断を経てもその勢いは衰えることなく、学制改革により葦崎高校となった後の昭和27年、第7回国民体育大会で念願の全国制覇を果たした際には、優勝パレードや歓迎会が盛大に行われるなど、町全体を喜びの渦に巻き込み、大変な盛り上がりを見せたと言います。そして、こうした長い栄光の歴史のなかで、サッカーは市民全体に行き渡り、葦崎はいつからか「サッカーのまち」と呼ばれるようになってきました。

葦崎市では、こうした長い歴史に培われたサッカー文化を特色ある財産と捉えています。そして、その歴史と文化を継承するとともに、サッカーを核に活気に満ちた魅力あるまちづくりに、市民団体とも協働しながら取り組んでいます。



ヨーロッパのスポーツシュールのような最高の雰囲気と称された葦崎中央公園芝生広場。VFKが管理する芝生の上で、プロサッカー選手が練習に汗を流す風景が日常的に見学できます。また、平成26年度には、全国高校総体の会場にもなりました。

葦崎高校栄光の軌跡

葦崎中学の初代校長堀内文吉氏からサッカーの指導と育成を託されたのは昭和2年に赴任した体育教師岩崎鋭市郎氏。身長175センチ、体重80キロの巨漢で、サッカーはまったくの素人だったが、徹底したスパルタ教育で生徒と一緒に走り、球を追った。当時のサッカーには格闘技のような荒っぽさがあり、合言葉は「蹴り込め」。岩崎氏の熱血指導と学校を挙げての応援の甲斐あって、昭和3年の第2回県下ア式蹴球大会で初優勝。その後も数々の大会で優秀な成績を残し、昭和11年にはついに第18回全国中学校蹴球選手権で準優勝。全国にその名を馳せる強豪に成長した。

戦後は、昭和27年には国民体育大会優勝、翌28年には準優勝と栄光を刻むも、その後は主だった戦績を残せず。再び優勝の栄冠をつかんだのは、昭和43年の国民体育大会。さらに、昭和50年には全国高校総体で優勝。一方、全国高校サッカー選手権大会では、54年の準優勝を皮切りに、55年3位、56、57年は共に準優勝、58年は3位と、高校サッカー界の名門として君臨し続けた。

近年では私立の台頭もあり苦戦が続くも、平成25年には全国高校総体でベスト16に。名門復活の期待が寄せられている。

葦崎市は、武田家ゆかりの史跡が市内のいたるところに点在する“甲斐武田家”のふるさとであり、今年ユネスコエコパークに登録された南アルプスをはじめ、八ヶ岳、茅ヶ岳、そして世界遺産である霊峰富士など日本の名峰が360°のパノラマに展開する、山紫水明の恵まれた自然環境に包まれています。

歴史や大自然に彩られ、流れ出る溪流や市内を流れる釜無川・塩川の清流は、この大地を潤し、新府桃源郷の桃の花や甘利山のレンゲツツジなどの花々を育て、特産の桃やぶどう、米など豊かな実りをもたらします。

「にらさき」の地名の由来でもある“ニラの葉”のように、まちの中央部を南北に走る七里岩台から、市のシンボルともいえる平和観音像が、市民や訪れる人々を温かく見守るまち、自然と、先人たちが築き、保存・継承されてきた伝統と歴史、そこに息づく人々の営みが紡ぐ生活文化とが調和するまち、そして誰もが“夢”と“希望”を持ち、安心して生活できるまち「にらさき」が、我がふるさと葦崎市でもあります。

市制施行60周年を迎え、これまで先人たちが築き上げてきたまちづくりの伝統と精神を継承しながら、市民のみなさまと行政が手を携え、“活力と魅力あふれるまち”の創造にむけて、夢を紡ぎ未来を織りなすまちづくりを進めてまいります。

Nirasaki-city is the hometown of “Kai-Takeda family” dotted with lots of historical sites associated with the Takeda family and is blessed with a wonderful environment of panoramic view of Japan’s best mountains such as Southern Alps (BR: Biosphere Reserve), Mt. Yatsugatake, Mt. Kayagatake, and a World Heritage Mt. Fuji.

The pure streams of Kamanashigawa River and Shiogawa River grow peach blossoms of Shimpu Togenkyo Shangri-la and Renge-tsutsuji azaleas of Mt. Amariyama and bring a good harvest such as peaches, grapes, and rice.

The name “Nirasaki” was derived from “Nira leeks” because the Shichiriwa plateau running in the north-south direction in the center of the city looks like Nira leeks. This is the city where the statue of Heiwa Kannon warmly watches over from the Shichiriwa plateau. This is the city where “nature” and “tradition, history and life and culture which our predecessors started, preserved, and passed down the generations” exist together in harmony. This is the city where everyone can live feeling securely and safely with one’s “dreams” and “hopes”.

Celebrating the 60th anniversary of the municipal system, we, citizens and the administration, work together hand in hand to promote the city development of spinning dreams and weaving the future to become “a city full of vitality and attractiveness”.

葦崎市が武田家の史跡所在地同时也是甲斐武田家の故乡,市内有联合国认证环境生态公园的南阿尔卑斯,八之岳,茅之岳及世界遗产灵峰富士等著名的名峰,360度全景包围环绕这城市。

釜无川,盐川的清流孕育新府桃源乡的桃花及甘利山の莲华踴躍等花种,并培育出水蜜桃及葡萄,特产米等丰富的农作物。

「葦崎」此地名的由来与葦菜叶子形状相似而得名,从市中央纵走南北的七里岩台上可以看到平和观音雕像温厚的守护这城市。在这个由先人构筑,保存,继承而来的传统与历史等融合在一起的城市里,不管是谁都可以怀抱着“梦”与“希望”安心居住的环境。

葦崎市成立以来即将满六十周年,我们将继续与市民携手共同创造“充满活力与魅力的城市”,朝着梦想的目标一齐向前迈进。



中央公園に クラブハウスを整備

平成25年、葦崎中央公園にもともとあった管理棟に、ロッカールームや浴室などを完備したクラブハウスを増設。同年10月には、県内外から1000人を超える方々が集まり、盛大に完成披露式典が行われました。



「自分の住んでいるまちが『一番!』
と考えることは、とても幸せなこと。
それを実現することが、
今の私の一番の夢ですね。」



「市民目線の活力あるまち
づくり」をスローガンに、
「チーム韮崎」始動!

民間出身の私が市政運営で最も大切にしていきたいのが、市民目線です。私自身、長らく一市民として暮らしてきましたので、そうしたなかで培われたセンスや考え方を基盤に、多くの方々のご意見をお聞きしつつ、様々な課題に、ときに柔軟に、ときに頑固に、取り組んで行きたいと考えています。掲げたスローガンは、「市民目線の活力あるまちづくり」市民の皆さまと信頼関係を築き、力を結集して、戦い抜く所存です。

産業を振興し、 賑わいを創出

これは全国的な傾向でもあるのですが、現在韮崎が抱えている課題の根底には、人口問題があります。ですから、最終目標は人口が増えるまちにすること。そのためにすべきことの基本は、「産業を振興すること」と、「住んで魅力のあるまちにしていこう」という2点にあると考えています。

市民交流センター「ニコリ」の成功は、私たちに一つの可能性を示してくれました。実際、韮崎駅前には賑わいが戻りつつあります。まずはこの「点を「線」へとつなげ、やがて「面」へと広げていくことが重要ですし、そのためには、商店街の方々はじめ、市民の皆さまとも密に連携を取りながら、新たな挑戦にも挑んでいきたいと考えています。

「サッカーのまちにらさき」
への思い

韮崎には、古くは旧制韮崎中学の校技に定められ、連綿と受け継がれて来たサッカーの歴史があり、サッカーは今や一つの市民文化とも言えます。平成25年からは、韮崎中央公園でヴァンフォーレ甲府が日常的に練習をする姿が見られるようになり、新たな風が吹き込まれました。今後も、引き続き健康増進の一環としてサッカーを推奨するとともに、まちづくりの面でもヴァンフォーレ甲府と協力していければと思っています。また、新たな挑戦としては、全国的にも少ない中学校の女子サッカー部を立ち上げ、女子選手の育成にも取り組んで行くことにしました。韮崎高校から多くのプロサッカー選手が生まれるように、将来、日本代表として活躍する「なでしこ」が誕生してくれ、たらと期待が高まります。

すべての市民が、幸せを
実感できるまちへ

韮崎は自他ともに認める「サッカーのまち」ですが、その根底にあるのは市民一人ひとりの健康です。私としては、サッカーもさることながら、まずは「番手軽な「歩く」ことを普段の生活に取り入れていただくことで、健康な体を維持する」とともに、人々が行き交い、挨拶の声が聞こえるまちづくりにもつながっていったらと願っています。

四季折々の自然の風景のなかで、人情に厚く心が丸い人々が暮らす韮崎。この美しい故郷を、「住んでいて幸せだ」と実感していただけるまちにすることが、今の私の大きな夢です。子育て支援、高齢者対策、山積する課題に立ち向かうには、市民の皆さまの力が必要です。ともに「チーム韮崎」として、新たなまちづくりに挑戦していきましょう!



風

の章

～笑顔をつづ～

夢を紡ぐ
未来を創る
～風を紡ぐ～



韮崎サッカーフェスティバル

昭和56年、関東近県を中心に全国から有力チームを招待して始まった伝統あるサッカー大会。今では韮崎の夏の風物詩ともなっています。近年は、小学生、中学生、高校生、女子、シニアの各カテゴリーで開催されており、市内各サッカー場で熱い戦いが繰り広げられます。



ホームタウンサンクスデー



U-3親子サッカーフェスティバルin 韮崎

生涯スポーツ「サッカー」が まちを元気にする

現在、市内にはいくつものスポーツ少年団やサッカーチームがあり、幼児から高齢者まで多くの方が所属して、競技としてのサッカーに真剣に取り組んでいます。韮崎中央公園やグリーフィールド穂坂など、整備されたサッカー場が点在し、毎週のように開催される幅広いカテゴリーの大会には、県内外から多くのチームが訪れます。休日ともなれば、街のあちこちからボールを蹴る音と人々の笑い声が聞こえ、街にも活気があふれます。

平成25年には、スポーツを通して市民の健康づくりや福祉の向上を目指す総合型地域スポーツクラブ「韮崎スポーツクラブ」の新たな活動拠点として、韮崎中央公園に更衣室や浴室などを完備したクラブハウスを整備しました。県内外からあらゆる世代のプレイヤーや観衆が集いサッカーを核とした交流を深めることで地域活性化を図りたいとの考えから、プロサッカーチーム「ヴァンフォーレ甲府(VFK)」に優先使用可能な練習場として提供していますが、市民活動にも広く開放して、生涯スポーツとしてのサッカーの浸透に努めています。

韮崎が目指すのは、すべての市民の活力あふれるライフワークです。市民文化としてサッカーに親しみ、プレイを楽しむことで実現されるよう、これからも全力で取り組んでいきます。

石原克哉選手から子供達へのメッセージ

子どもの頃、国立競技場へ韮崎高校の応援に行ったことがあります。羽中田さんや保坂さんなど、地元のお兄さん達が大舞台上で活躍している姿がキラキラと輝いて見えて、自分もあんな風になりたいと思ったのが、プロになる大きな力となりました。



今、きみたちの身近には、ヴァンフォーレというプロサッカー клубがあり、間近でプロに触れる機会がある。ちょっと羨ましいと思います。ぜひ、たくさんの試合を見て、いろいろなことを吸収して、そして、もっともっとサッカーを好きになってください。

僕にも、まだまだやらなければならないことがあると思っています。お互い頑張って、ぜひ、J1のピッチで会いましょう！



©2014VFK

石原 克哉 (いしはら かつや)
1978年10月2日 韮崎市生まれ。甘利小、韮崎西中、韮崎高校と進み、順天堂大学を経て2001年ヴァンフォーレ甲府入団。1年目から30試合に出場し、J通算では439試合(2014.10.5現在)に出場。以後、14年間にわたり、中心選手として活躍し続けている。

夢をカナエル・カエル ～サッカーのまちにらさき

小さな子どもからシニア世代まで、年齢や性別に関わらずみんなで楽しむサッカーは、長い時間をかけて育まれてきた韮崎の市民文化なんだね。これからもサッカーを通して、元気なまちを作って行こう！





夢と感動のテーマシティにらさき1

誰もが
いきいきと
輝ける
まちづくり



笑顔輝く子育て環境を実現

子どもを取り巻く環境が変化するか、市では、地域社会や関係機関、市民団体とも連携しながら、「子どもを安心して生み、育てられる環境づくり」に、精力的に取り組んでいます。妊娠、出産、育児における健診や育児学級やパパ・ママ学級といった教室の開催をはじめ、医師や臨床心理士による個別相談を実施するなど、育児不安を抱えるお母さんのさまざまな不安を受け止める相談事業も幅広く展開し、きめ細やかに対応しています。

平成23年9月には、市民交流センター「ニコリ」内に、子育て支援センターをリニューアルオープンしました。施設内には、県産材を利用した大型遊具やベンチなどを配し、「屋内の公園」をイメージ。木のぬくもりに触れながら伸び伸びと遊ぶことのできるプレイスペースや、ランチコーナー、お昼寝コーナーに加え、専門のスタッフが



子育て支援センター

常駐する相談室も完備しています。工作や読み聞かせなど、多彩なイベントも開催され、子育て中の親子の友達作りや情報交換の場ともなっています。



3歳児健診



すずらん保育園イメージ



中学校 登校風景



小学校 電子黒板を使つての授業

安心して自ら学び、考える力を養う教育環境を

施設の老朽化やニーズの多様化に対応するため、市立保育園の再編を進めています。平成27年4月には円野、旭、竜岡保育園を再編したすずらん保育園が誕生し、甘利山の間伐材を活用した温かみのある木造園舎で、サービス拡充にも努めています。また、小学3年生までの児童を対象とした病児病後児保育についても、市立病院のバックアップのもと専任の看護師・保育士を配置し、平成23年度より実施しています。

小中学校では、教科学習の充実はもとより、読書、食育、環境活動など幅広い学習指導を行っています。これまでも朝読書などに取り組んできましたが、教育現場を

支えるとともに、子ども達があらゆる機会にあらゆる場所で自主的に読書活動ができるよう「子ども読書活動推進計画」を策定。市立図書館とも連携して、さらに進めて行きます。また、食品生産者や地域、保護者と連携しての食育活動や、エコキャップ回収、緑のカーテンといった活動を通じての環境教育も継続的に行っており、大きな成果を挙げています。

さらに、全小中学校へのエアコン設置や、体育館の照明器具などの非構造部材の補強、窓ガラスの飛散防止といった地震対策など、ハード面の充実にも努めています。長期寿命化を目的とした校舎の改築計画も進行しており、順次実施していく予定です。

すべての市民が健康で、イキイキと

心身共に健やかに生を全うすることは、誰もが願うことです。市では、がん検診も同じ会場で受診できたり、愛育会による託児サービスを行ったりと、より受けやすい健康診断を実施して受診を推進するとともに、赤ちゃんから高齢者まで、年齢や生活環境、健康状態に応じて参加できるさまざまな健康教室を開催し、市民の健康意識の向上に努めています。また、スポーツ推進委員や食生活改善推進員との連携のもと、生活習慣病予防を目的として開催する「陸上ウォーキング教室」や、各地区において自主的に介護予防のための活動を展開してもらう「いきいき貯筋クラブ」を開

催するなど、シニア健康サポーターを養成し、創意工夫を凝らした複合的な取り組みにより、予防に対する市民の関心も広がっています。

高齢化が進み、認知症が社会問題の一つになるなか、市では、高齢者やその家族にとっても、安全に、安心して暮らせるまちであるためのさまざまな取り組みを進めています。徘徊SOSネットワークもそのひとつ。事前に身体的な特徴などを登録することで素早い対応が可能となり、交通機関などの協力により早期に発見できるシステムです。



福祉の日記念まつり



武田の里ウォーク

夢を紡ぐ^{つむ}
未来を織りなす風・林・火・山

林の章

～時代を紡ぐ～

武田八幡宮

鎮守の森の中で、厳かな雰囲気漂わせ佇む武田八幡宮。現存する本殿は、武田信虎が起工し、信玄が造営したもの。室町時代の特色ある建築で、内壁に金箔が貼られ、柱は朱塗りになっているなど、贅をこらした装飾が、絶頂期の武田家の隆盛のほどを彷彿とさせます。

武田の里

甲斐武田家発祥の地であり、終焉の地でもある「武田の里にらさき」。市内に残された史跡や文化財は、静かに時を刻みながら、繁栄と滅亡の歴史を今に伝えています。

甲斐武田家の祖

武田太守信義公ゆかりの地

戦国時代、大勢力を築いた甲斐武田家。その祖は、清和源氏の流れをくむ甲斐源氏の始祖新羅三郎義光の曾孫、源信義と言われています。大治3（1128）年8月15日に生まれ、13歳のときに武田八幡宮で元服。以後、武田太守信義と名乗り、武田八幡宮は武田家の氏神となりました。平安末期、武運に優れた信義は甲斐源氏の棟梁となり、「門を率いて二の谷の戦いや屋島の戦い、壇ノ浦の戦いなどにも参戦して、功績を修め、鎌倉

幕府の成立に貢献します。しかし、その強さが災いし、頼朝から脅威とされ疎まれたため、晩年は不遇であったと伝えられます。

かつて武田の庄と呼ばれた信義の所領は、現在の神山・旭・大草・竜岡周辺にあたります。豊かに広がる田園風景のなかに佇む館跡や菩提寺である願成寺が、兵どもが見た壮大な夢を、今に生きる私達に伝えています。



初代当主
信義の像



時を超え、まちを見守ってきた(武田八幡宮石鳥居)



魔除けの鬼意匠(武田八幡宮本殿)



武田八幡宮拝殿

夢を見守りつづけて

新府城跡

戦国時代の名門武田家の最後の城。数々の防衛策を施した、甲州流築城術の集大成とも言われます。本丸の跡地に立つと、この地が、七里岩の地形を活かして要となる場所を一望のもとに押さえることが出来た場所だったことがわかる、歴史的景観が広がります。

壮大なロマンの 息づく場所

甲斐武田家発祥の地である韮崎は、昔も今も、武田家にとって最も重要な場所。始祖である信繁公の菩提寺、代々の当主が長久と繁栄を祈願した武田八幡宮など今も残る縁の深い寺社や、勝頼公も眺めたであろう新府城跡からの自然豊かな風景などに、天下取りに挑んだ武田家の壮大なロマンを感じていただけたらありがたいですね。

武田 邦信さん

Profile

武田家宗家当主。信玄公から数えて16代目に当たる。「武田の里・サッカーのまちにらさき ふるさと大使」としても活躍中。



武田八幡宮本殿

終焉を見守った悲劇の城

信義から数えて16代目の当主が、戦国最強とも称される武田信玄です。戦国の世にあつて、甲斐地方の覇者として君臨しましたが、天下統一の夢は叶わず、その息子である勝頼もまた、天正3（1575）年の長篠の戦いで織田・徳川連合軍に大敗を喫すると、体制を立て直すため、60年にわたって本拠地だった躰鞠ヶ崎の館を離れることにします。勝頼が防御に優れた地形であるとして新天地を選んだのが、古くからの交通の要衝として栄えてきた韮崎の、「西の森」と呼ばれていた七里岩台地の末端の地でした。真田昌幸（幸村の父）を普請奉

行に命じ、約1年で作らせた新たな城は「甲斐の国の新しい府中」であることから、新府城と名づけられました。天正10年12月24日頃に、家族や家臣と共に完成したばかりの新府城に移った勝頼でしたが、翌年3月3日には織田勢に攻められ、城に自ら火を放つて、わずかな家臣と共に落ち延びることになります。勝頼の在城は、わずか70日余り。悲劇の城、新府城は、近年の調査により、地形を活かし工夫を凝らした防御策の施された、優れた城であったことがわかっています。



お新府さん

新府城本丸跡に、勝頼の霊を祀った藤武神社の例大祭。祭りのハイライトは、249段の石段を一気に駆け上がる神輿渡御。新府桃源郷に咲き誇る桃の花が、祭りを鮮やかに彩ります。

甲州街道 葦崎宿

江戸日本橋を起点に定められた五街道のひとつ。信濃国下諏訪宿で中山道と合流するまで、45の宿場が置かれました。葦崎はその38番目の宿場に当たります。

林の章

～時代を紡ぐ～

夢を紡ぐ
未来を織りなす風・林・火・山

江戸時代の旅装束

士農工商の身分制度が確立していた江戸時代。旅姿にも、身分や肩書を象徴するスタイルがありました。また、「道中案内記」や「道中日記」を参考に、商用や参詣など旅の目的に合わせて、出来る限り荷を軽くする工夫をしたと言われます。



街道のまち

甲州街道、駿府往還・佐久往還という3つの主要な交通路の分岐点にあたる葦崎は、古くから交通の要衝であり、峡北地方の中心地でもありました。

葦崎宿の面影

江戸幕府によって甲州街道が整備されると、38番目の宿場がおかれ、街道沿いに(現在の本町通り)本陣と17軒の旅籠が軒を連ねて、伝馬や旅人、行商人を迎えました。また、宝暦3(1753)年に、一ツ橋家の陣屋が置かれてからは、行政の中心としても発展しました。

さらに、天保6(1835)年には、釜無川を引き入れて河岸が設けられます。船山河岸ができたことで、鰍沢止まりだった富士川舟運は葦崎まで延長され、江戸城に納める年貢米や雑穀を「上げ米」

し、塩や海産物を「下げ米」する近番船が往来し、交易がより盛んになりました。宿の通りには、問屋や商店が立ち並び、農作物を売りに来る農民や、それらを求めて来る商人、さらには、馬に物資を乗せて信州へと運ぶ中馬稼ぎの姿も見られ、1903年12月に中央線が開通するまで、大変な賑わいぶりが続きました。

今ではきれいに舗装され、整備された本町通りですが、江戸時代から続く旅館や商店、店先の馬つなぎ石などが、往時の面影を伝えています。



馬つなぎ石

中馬稼ぎや行商人が、穴に手綱を結んで馬をつなぎ、運ばせてきた荷物を店内に運び入れたと言われる石。かつては商店や問屋の両脇にありました。



鋸刃状のまちなみ

道に並行ではなく、斜めに間口がある本町通りの家々。そのまちなみは鋸の刃に似ています。「家の前に荷を置く場所が必要だった」「強風によるほこりや馬糞を防ぐため」など、その理由にはいくつかの説があります。



船山河岸の碑

1607(慶長12)年、富士川が開削され、富士川舟運が始まってから230年近く後の1835(天保6)年、船山河岸が築かれ、葦崎が終点となりました。



鰍沢横町

船山河岸と宿場を結ぶ道。沿道には駄菓子屋や馬方茶屋が軒を連ね、物資の集散地として賑わいました。



一橋陣屋址

徳川御三卿と称され、御三家に次ぐ將軍継承権を与えられていた一橋家。甲斐国に所有する3万石の統治のため、1753年から1794年まで葦崎に陣屋を置きました。



葦崎宿本陣の跡

甲州街道を参勤交代に使用したのは、信濃高遠藩、高島藩、飯田藩の3藩のみ。しかも、日程の関係で葦崎に宿泊することは減多に無かったため、本陣は問屋が兼務していました。

どれほどの人や馬が往来したのかと
往時に思いを馳せながら、
歴史をたどって見つけたのは
時を超えて守っていく大切なもの。

五海道其外延絵図 甲州道 巻第7
(韮崎一ヶ原) [東京国立博物館蔵]より

江戸幕府が五街道の状況を把握するために、
道中奉行に命じて作らせた詳細な絵地図。
「甲州道 巻第7」の、韮崎から台ヶ原への絵
図には、旅人の前に聳える断崖絶壁の七里
岩の姿が描かれています。



まちなみを鮮やかに彩る“のれん”

モダンなデザインや鮮やかな色彩で、現代のまちなみに華やかさと賑わいを演出。お店のイメージも一新し、韮崎の新たな魅力となりました。

夢をカナエル・カエル ～歴史がいきづくまちづくり

戦国の名将 武田信玄を生んだ武田家との深い関わりや、古くから交通の要衝として栄えてきた歴史は、韮崎の財産。大切に守りつつ、これからのまちづくりにも活かしていきたい。



「のれん」の
まちなみ
のれんをくぐった向こうには、
おもてなしの笑顔が待っている。

のれんが作る、まちなかミュージアム

ひらひらと手招きしているかのよう到店先で揺れる「のれん」。その起源は縄文時代の日よけにあると言われ、平安時代には庶民の日用品として、雨風避けや部屋仕切りに使われました。現在のように商売道具の一つとして店先を飾るようになったのは、室町時代になってから。江戸時代には韮崎宿でも、家紋や文字を入れたさまざまな「のれん」が華やかに街並みを彩り、街ゆく人の目を楽しめたと伝えられます。

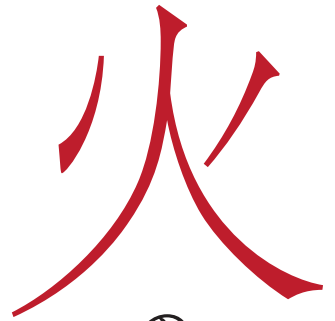
現在、韮崎の商店街を歩くと、商店や飲食店、銀行にも、「のれん」が掲げられているのに気づきます。これは、「のれん」を掲げて宿場町の賑わいを取り戻そう」と商店

街の皆さんが、市や商工会と一緒に進めている活動で、市内160店舗が参加しています。店先を飾るのは、思いや心意気を込めて店主がデザインした、世界でただ一つの「のれん」。色も形もデザインも、ひとつひとつ違っていて、ずらりと並んだまちなみは、あたかもミュージアムのようなものです。

気になる「のれん」を見つけたらぜひくぐってみてください。きつと、懐かしい笑顔との出会いが待っています。



夢を紡ぐ^{つむ}
未来を織りなす風・林・火・山



の章

～誇りを紡ぐ～

情熱を育むまち

近代日本経済の立役者にして、文化振興にも貢献した小林一三
宮沢賢治と友情を通わせ、自らの理想郷を追い求めた保坂嘉内
縄文大国 葦崎の調査・発掘に、生涯を捧げた志村滝蔵…
郷土が生んだ心熱き偉人たちは、葦崎に生きる人々の誇りです。

希代の実業家 小林一三

1873(明治6)年1月3日、河原部村(現在の葦崎市本町)の裕福な商家小林家に生まれた一三は、慶応義塾で福澤諭吉の教えを受け、卒業後は三井銀行に14年間務めました。

1907(明治40)年、銀行を辞めた一三は、実業家としての第一歩を踏み出します。かつて銀行の上司だった北浜銀行の頭取岩下清周の後押しを受け、大坂郊外に予定されていた新しい鉄道会社の発起人になると、それまで誰も考えなかった「沿線開発で利用者を増や

す」ため沿線を住宅地として整備して分譲販売し、また、動物園や温泉、レジャーランドなど、多くの人が遊びに来たくなる施設を作り、奇抜なアイデアを次々と実行していきました。そして、「田舎路線だから困難だろう」と思われていた箕面有馬電気軌道(後の阪急電鉄)の経営を安定させて、日本有数の鉄道へと導いたのです。

この成功を皮切りに、社会の変化に柔軟に対応した判断力と、鋭い経営感覚、そして迅速な行動力で、発電

映画、劇場、野球、ホテルなど、幅広い事業を展開していきます。明治・大正・昭和と続く激動の時代にあって、一三は多くの会社を設立・再建し、日本経済の発展に多大な功績を残しました。また、大臣を二度にわたって務めるなど、政治の世界でも活躍しました。さらに、俳句や茶道、芸術にも造詣が深く、晩年は自らが創設した宝塚歌劇を観劇し、茶道や書き物に動しみながら、のんびりと暮らしました。1957(昭和32)年1月25日、心臓喘息で急逝しますが、葬儀は宝塚大劇場で宝塚音楽学校葬として行われました。

小林一三 (こばやし いちぞう) [1873-1957]

1873(明治6)年1月3日、河原部村の商家 布屋に生まれる。15歳で上京。慶応義塾卒業後、三井銀行勤務を経て実業界へ。阪急電鉄や宝塚歌劇団をはじめとする阪急東宝グループ(現阪急阪神東宝グループ)の創始者。生涯に多くの起業と再建を手掛け、鉄道を起点に都市開発や流通事業を一体的に進め相乗効果を上げる私鉄経営モデルを独自に作り上げるなど、その後の実業界に多大な影響を与えたことから、日本屈指の実業家と称される。第二次近衛内閣の商工大臣を皮切りに、幣原内閣の国務大臣、初代戦災復興院総裁などを歴任。政界でも活躍した。





小林一三生家跡(上宿「布屋」本家跡)

小林家は、「布屋」の屋号を持つ商家で、葦崎きつての大地主。一三はその分家の跡取りでしたが、生後間もなく母親が亡くなり、婿養子だった父親も実家に戻ったことから、本家の大伯父のもとで、大切に育てられました。公立小学葦崎学校に通っていた一三は、とても頭が良く、元気で、リーダーシップもあるガキ大将。皆から最高の尊称である「ぼうさん」と呼ばれていました。当時葦崎小近くにあった「蓬萊座」という芝居小屋に足しげく通い、仲間を集めては芝居のまねごとに熱中していたのもこの頃でした。

小学高等科卒業後は、当時新しい教育を行っていた八代村(現笛吹市)の私塾「成器舎」を経て、1888(明治21)年、慶応義塾の予科に編入。福澤諭吉から直接教えを受け、やるべきことに集中し、他に惑わされない「不関心」や、自分の考えを信じて自ら行動する「独立独行」「独立自尊」を学びます。これが、生涯を通じて一三の精神となりました。

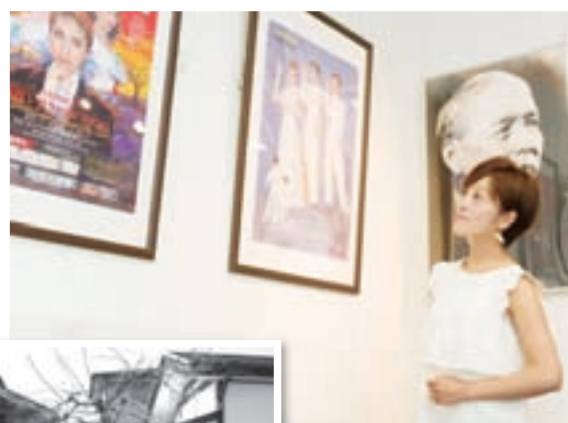
上京後の一三が葦崎に帰省する機会は少なかったものの、実業家として成功した後私財を投じて映画館「甲府宝塚劇場」を設立しました。1966(昭和41)年には、市民会館の完成を記念し、一三の遺族から文化振興のための多額の浄財や備品が図書館に寄贈され、常に温かい眼差しが向けられていました。



一三が育った「布屋」本家(現在はならさき文化村)



一三の部屋があった「布屋」中宿分家(現存)



ふるさと偉人資料館



私にとっては思い出がいっぱいある特別な場所のひとつ。
改めて考えると、不思議なご縁があったのかもしれないね



葦崎出身タカラジェンヌ神麗華さんと一三ゆかりの地を歩く

最初に訪れたのは、本町通りにある「ならさき文化村」。幼い日の一三が大伯父夫婦と暮らした布屋の本家のあった場所です。開口一番「懐かしい!」と声を上げた神さん。本町通りは、小学校への通学路。実家から近いこともあり、その頃は公園だったこの場所が毎日のように遊んだそうで、「私にとっては思い出がいっぱいある特別な場所のひとつ。改めて考えると、不思議なご縁があったのかもしれないね」と、感慨深げな表情です。

は、まるでファンの少女のようです。

最後に訪れた観音山公園は、七里岩の突端にあたり、葦崎市を一望することが出来ます。眼下に広がる故郷を眺めながら「緑が多くて、心が落ち着く葦崎。私はこのまちが大好きです。上の墓地にはお母さんのお墓もあるの、一三先生も墓参の際にはこの風景を眺めたのでしょうね」と神さん。宝塚音楽学校へ入学が決まった時から、折に触れて小林家墓所への墓参を続けているとのこと。で「今日は改めて、一三先生ゆかりの地を歩き、懐かしさと同時に、音楽学校に入学した頃の新鮮な気持ちも蘇ってきました。一三先生の教えである、『清く正しく美しく、そして朗らかに』を、これからも私なりに実践していきたいと思っています」と、決意も新たに語ってくれました。



神麗華(じん れいか)

葦崎市生まれ 葦崎高校卒業後、1997年85期生として宝塚音楽学校に入学。1999年3月、宝塚歌劇団入団。雪組娘役スターとして数々の舞台で活躍した後、2010年4月「ソルフェリーノの夜明け／Carnevale睡夢」を最後に退団。2014年ブロードウェイミュージカル「シカゴ」宝塚歌劇100周年記念OGバージョンに出演。

火 の 章 ～誇りを紡ぐ～

銀河鉄道展望公園から

嘉内が中学一年生の時に描いたハレー彗星のスケッチには、「銀漢ヲ行ク彗星ハ夜行列車ノ様ニシテ」の書き込みがあり、賢治の代表作でもある「銀河鉄道の夜」を連想させます。このスケッチと同じ風景を楽しめる場所が、穂坂町の「銀河鉄道展望公園」。暗闇のなか、対岸の山肌を窓から光りを放ちながら下り列車が走り抜ける様子は、あたかも銀河鉄道が夜空に登っていくかのように幻想的です。嘉内は、「風の三郎」を記った風神の祠など、他にも賢治の作品を連想させるスケッチを残しており、賢治の創作活動に大きな影響を与えた人物としても注目されています。



嘉内が描いたハレー彗星のスケッチ

保阪嘉内と宮沢賢治

「アザリア」で結ばれた熱き友情

保阪嘉内は、1896（明治29）年、駒井村（現韮崎市）の旧家に生まれました。度々氾濫する塩川に田畑を荒らされ、翻弄される農民を間近に見て育った嘉内は、幼い頃から農業に人一倍関心があったと言われます。

県立甲府中学校（現甲府一高）を卒業後、東北帝国大学農科大学（現北海道大学農学部）を志すも叶わず、浪人生活を経た1916（大正5）年に、盛岡高等農林学校（現岩手大農学部）に進学します。そこで待っていたのが、宮沢賢治との

運命的な出会いでした。寮で同室になった2人は急速に親しくなり、河本義行、小菅健吉も加えた4名が中心となってアザリア会を結成。1917（大正6）年7月、同人誌「アザリア」を創刊します。会員12名の手作りによる小さな雑誌でしたが、この活動を通して文芸に目覚めたことが、賢治を創作活動へと誘い、「注文の多い料理店」や「風の又三郎」など、数々の名作を生み出すきっかけとなりました。

残念ながら、約1年後に発行された第5号に寄せた文章が過激な思想と判断され、嘉内は除名放校処分という厳しい処分を受けて学校を去ることとなります。「アザリア」も6号をもって終刊となりますが、熱い友情で結ばれた4人は、書簡を通して親交を続けました。

保阪嘉内（ほさか かない） [1896～1937]

1896（明治29）年、駒井村の地主の家に生まれる。甲府中学（現甲府一高）在学中、クラークの愛弟子である大島正健校長の薫陶を受け、トルストイやキリスト教への強い関心を持つようになり、「農学を修め、村長になって故郷を模範的な農村『花園農村』にしよう」との理想のもと盛岡高等農林に進学。2年次修了後に放校となり、別大学への進学を目指すも母の逝去により帰郷。山梨県教育会、山梨日日新聞社、日本青年協会への勤務を始め、生涯に多くの職業に就いた嘉内だが、その根幹は「農人」であり、最期まで自らの理想とする「花園農村」の実現を追い求めていた。



アザリア会の中心メンバー。4人は熱い友情で結ばれていた。左上)保阪嘉内 右上)宮沢賢治 左下)小菅健吉 右下)河本義行



アザリア会の同人誌「アザリア」は、謄写版を使って12名の会員分だけ印刷され、学校や会員外の学生に配られることはなかった。



アザリア記念会

宮沢賢治と保阪嘉内の生誕110周年を機に結成された市民団体。韮崎市民を中心に、「アザリアの友」の友情を受け継ぎ、現在につなぐ活動を進めています。顧問には、嘉内の長男善三氏と次男庸夫氏も名を連ね、毎年、嘉内の誕生日である10月18日前後に、「花園農村の碑」の前で、碑前祭を開催しています。



坂井遺跡

縄文時代中期(加曾利E式期)の遺跡。丘陵の上にあり、湧水もあることから、当時の人々にとって理想的な居住地だったと考えられる。浅鉢形の土器、土偶、滑車型耳飾り、土鈴、顔面把手など多彩な土器や、打製・磨製の石斧、石匙、石鏃、槌石、石皿、石錘、浮石、石棒、石刀といった数多くの石器、加えて、竪穴式住居などの住居跡などが多数見つかり、その頃の人々の暮らしを解明する貴重な手掛かりとなっている。



遺跡発掘にかけた情熱 志村滝蔵

縄文王国、葦崎を夢見て

1879(明治12)年の道路工事で縄文式土器が発見されたことから存在が確認された坂井遺跡。その後、発掘調査を行い、全国に知らしめたのが、市民研究家志村滝蔵です。

志村滝蔵は、1901(明治34)年、駒井村現葦崎市藤井町の農家の次男として生まれました。考古学に興味を抱き、小学校5年の歴史の時間。当初は、畑仕事で見つけた土器や石器を集め保存していたに過ぎませんでした。が、考古学者八幡一郎との出会いや、考古学・人類学の権威鳥居龍蔵博士の指導により、探求心が深まってきました。

1925(大正14)年、実家の農業経営を任されていた滝蔵は、耕作地の改良に着手します。20年かけて一町畝の桑畑を天地返しするという壮大な計画の裏に



志村滝蔵 (しむら たきぞう) [1901 ~ 1971]

1901(明治34)年1月2日、父志村八百蔵、母りんの次男として生まれる。1913(大正2)年、藤井尋常高等小学校5年のとき、橘正太郎先生から石器時代の話を聞き石鏃(矢じり)を見せられてから考古学に興味を抱く。1923(大正12)年、長兄の死により実家の農業経営を担うこととなるも考古学への探求心は失せることなく、仕事の傍ら発掘及び研究を続ける。1948(昭和23)年、長男富三と共に本格的な発掘調査に着手するなど、生涯を通じて坂井遺跡の発掘に取り組みとともに、考古学の普及・発展にも尽くした。1971(昭和46)年4月3日没。享年70歳。生涯をかけて出土した約3000点の遺物は、坂井考古館に展示されている。

は、「深く掘り返せば必ずや考古学上の発見を得られるだろう」との目論見もありました。実際に、土偶、吊手土器、石器、土器製作の台形土器など、多数の貴重な遺物が発見されており、滝蔵はそれまでの成果をまとめた論文を、昭和初期に2度にわたって発表しています。

その後、戦争により中断された発掘活動でしたが、1948(昭和23)年の年明けから、ジャワより復員した長男富三と共に再開。山梨県郷土研究会や藤井小

中学校の協力も得ての大きな発掘調査へと発展し、多大な成果を上げる一方で、1950(昭和25)年には、自宅敷地内に「坂井考古館」を作り出土品を展示するとともに、竪穴式住居を復元して郷土研究や学校教育の場として提供するなど、考古学の普及・発展にも尽くしました。

大正、昭和の県内考古学の黎明期にあつて、ゆるぎない情熱を持って遺跡発掘に取り組んだ滝蔵。その炎は、70歳で生涯を閉じるまで激しく燃え続けました。

縄文王国 葦崎

葦崎には縄文時代のムラの跡がいくつも発見されており、早くから人間が住みついたと考えられています。坂井遺跡と後田遺跡から発掘された土偶は、縄文時代の信仰を伝えるとともに、その造形は高い芸術性の存在をうたえており、当時から高い文化を持っていたとも考えられています。

大英博物館へ招かれた2つの土偶

平成21年には、市内で発見された2つの土偶が、イギリスにある大英博物館の「THE POWER OF DOG」に招待され展示されました。これらは、日本の縄文文化の象徴ともいえる土偶の特徴を示しており、芸術性も高いと評価された原始美術品と言えます。



仮面土偶

後田遺跡から発掘した縄文後期の土偶。顔につけた仮面が特徴。膨らんだ腹部は子どもを授かった女性を表現していると考えられている。

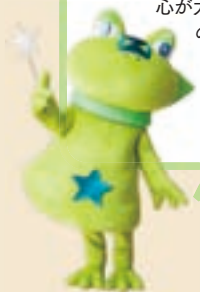


立像土偶

坂井遺跡から発掘した縄文中期の土器。渦巻き模様を飾り付けた結髪と、大きな下腹部が特徴。妊婦を表していると考えられている。

夢をカナエル・カエル ～偉人の情熱に倣って

葦崎が誇る3人の偉人は、とても熱い心を持っていたんだね。何かを成し得るには、この熱い心が大切なんだ!すべての市民が自分の夢に向かって情熱を持って進んで行けるよう、ニーラも応援するよ。





ナイトNIRAマルシェで賑わいをみせるニコリ前

市民との協働によるまちづくりをさらに推進するため、平成23年9月、韮崎駅前に、あらゆる世代が集い、交流できる、韮崎市民交流センターをオープンしました。

1階の市民プラザには、市民活動支援室を設置し、会議室や市民ギャラリー、調理室、陶芸・工作室、音楽室なども整備して、市民や市民団体による生涯学習活動や文化芸術活動を幅広く支えています。また、韮崎駅前という立地から、観光案内所や地域物産品の販売店、サッカーミュージアム、ふるさと偉人資料館、韮崎大村美術館サテライトスペースなども整備。地域の情報発信地として、市民だけでなく、観光客へのPRにも一役買っています。

施設内には子育て支援センターや市立図書館もあり、子育て世代の親子や学生、高齢者までが気軽に集う、協働のまちづくりの象徴ともいえる施設です。施設の愛称「ニコリ」には、大勢の人がにっこりとして集い、学び、さらに賑わいづくりを創出しながら交流していくようにとの願いが込められています。市では、ここを拠点にまちなかの散策や買い物ができるよう、併設の駐車場は4時間まで無料としています。

新たな市民の交流拠点「ニコリ」



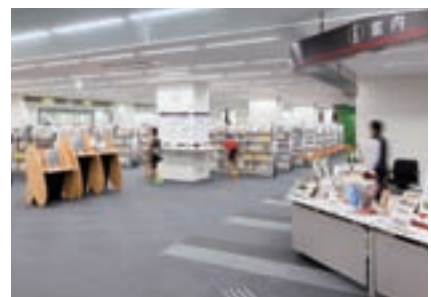
笑顔
行き交う
賑わいの
まちづくり



市民交流センター「ニコリ」



地域情報発信センター



市立図書館

創意工夫を凝らし、まちなかに賑わいを。

多くの地方都市同様、中心市街地商店街の空洞化が、大きな課題となっています。市では、平成20年に「韮崎市まちなか活性化計画」を、そして平成25年には「第2期まちなか活性化計画」を策定し、元気で活力ある中心市街地の再生を推進しています。その実践的取り組みの一つとして定着しつつあるのが、「のれんのあるまちづくり」。商店街にある約160店の店先や軒先にのれんや店頭幕を掲げることで、甲州街道の宿場町として栄えたかつての面影が蘇り、街並みに一体感も生まれました。平成24年度からは、来店促進を目的と

したスタンプリー「のれndeビンゴ」も実施し、街並みの散策に新たな楽しみを提供しています。

一方、平成23年から始めた朝市「NIRAマルシェ」は、26年からは会場をニコリに移し、夕市「ナイトNIRAマルシェ」として開催。開催日には、市内はもとより市外からも多くの買い物客が訪れ、活気づきます。

さらに、イメージキャラクター「ニラ」とのタイアップや「プレミアムふれ愛商品券」など、さまざまな視点から工夫を凝らし、地域の活性化に取り組んでいます。



広報の表紙を飾るニラ



イベントでも大人気のニラ



ステーションナリーを始め、ナンバープレートなどさまざまな広がりを見せるニラグッズ。のれndeビンゴでもイベントを楽しく盛り上げた。

地域の資源を活かし、新たな魅力を創出

縄文時代には王国を築き、戦国の世には武田家を生み、江戸時代以降は甲州街道の宿場町、富士川舟運の船着場として繁栄を極めた韮崎。縄文時代から連綿と続く先人の営みは、多くの史跡や文化遺産となり、今に伝えられています。市では、そうした数々の文化的な資源を次世代につなぐとともに、韮崎の新たな魅力とし、まちづくりにも活用していきたいと考えています。「ふるさと歴史再発見ウォーク」は、広く市民の皆さんにそうした資産の存在を知り、その価値を再認識してもらうための催しです。

また、我が国の近代ビジネスモデルの先駆者であり、宝塚歌劇団の創始者でもある小林一三翁をはじめ、宮沢賢治と親交があり、一説には「銀河鉄道の夜」のジョバンニのモデルとも言われる保阪嘉内、身延鉄道の創始者のひとりである小野金六、生涯を掛けて韮崎の縄文遺跡を発掘した志村滝蔵など、多くの偉人を輩出したまちでもあります。市では教育や文化の発展につなげ、市民の誇りを醸成するために、ニコ



ふるさと偉人資料館



小林一三翁生誕140周年として開催された「夏の武田の里 ふるさとまつり」のテーマは“夢からはじまる未来”。10年後の未来の自分に向けてメッセージを送るドリームステーションが登場した。



ふるさと歴史再発見ウォーク

リ内にふるさと偉人資料館を設置し、こうした先人の偉業を広く紹介しています。

夢を紡ぐ^{つむ}
未来を織りなす風・林・火・山

山の章

～いのちを紡ぐ～

夢を涵養する大地

周囲に聳える名だたる名峰

長い時のなかで、数多の恵みを運び、巨大な岩を侵食して、

肥沃の大地を形成してきた二本の清流

山紫水明の地 韮崎は、多くの夢を育んできました。

今までも、そしてこれから、 韮崎を見守り続ける七里岩と八ヶ岳

およそ7里(約28K也)にわたって続くことからその名がついた「七里岩」。先端部で平和観音が人々の暮らしを見守り続ける、韮崎の象徴的な存在です。

今から20～25万年前、八ヶ岳は火山活動の最盛期を迎え、阿弥陀岳付近を中心に噴火を繰り返していました。古阿弥陀岳を山

頂に、富士山のような山容をしていたと言われます。

現在の姿になったのは、20

万年前のこと。大規模な山

体崩壊が起こり、山頂が吹

き飛ばされて、二気に低く

なりました。そして、この

とき発生した大量の韮崎

岩屑流が、長い時間をかけ

て釜無川と塩川によって浸

が七里岩台地です。

富士山と八ヶ岳が背比べ

をし、八ヶ岳が勝った。怒っ

た富士山が八ヶ岳を蹴っ飛

ばしたから、山頂が吹っ飛

んで八つに割れてしまった

——と、お馴染みの昔話に

ある通り、八ヶ岳は本当に

富士山より高い山だったの

かもしれません。

「韮崎」～地名の由来

七里岩の先端部分が、「韮の葉先」に似ていることから、「にらさき」と呼ばれるようになったとも言われます。



七里岩の先端に建つ平和観音



紅葉に彩られた七里岩



釜無川

釜無川と塩川

市内を南下する2つの清流は、アユ釣りのメッカ。沿岸部には肥沃な水田地帯が広がっています。

武田の里に咲き誇る、孤高の桜

葦崎段丘の中央、こんもりとした塚の中心で凛としたたたずまいを見せているのが、「わに塚のサクラ」です。

のどかな田園地帯の真中にただ一本、残雪の残

さて、洪水の心配がないことから、太古の昔から先人たちが集落を形成して、暮らしを営んできた七里岩台地ですが、その側面は断崖絶壁で、高さ40～150メートルもある切り立った崖が延々と続いています。

岩肌や洞窟には、「屏風岩」「伊勢山」「太子洞」などの名前も付けられており、まさに自然が創り出した芸術品。長い年月のなかで育った木々も四季折々に彩を添えて、美しい景観を創り出しています。

る山々を背に堂々と咲き誇る姿は、潔さと気高さを漂わせ、見る者を魅了します。背景を飾る残雪の山々とのコントラストも美しく、また、夕闇の中ライトアップされた姿も幻想的です。

わに塚のサクラ

樹齢320年のエドヒガンザクラ。旧郵政省のポスターやドラマのタイトルバックなどにも使用されました。「わに塚」の由来には、塚の形が神社仏閣の軒に吊るされている金属製の音具「鰐口」に似ていることから、「鰐塚」とする説、この地を治めていた日本武尊の皇子「武田王」の墓であるとの言い伝えから「王仁塚」とする説など諸説あり、本当のところはわかりません。



山の章

～いのちを紡ぐ～

花咲き競う麗しのふるさと

約60ヘクタールにも及ぶ広大な面積が、桃色に染まる新府の春。自然豊かな農村風景が、色鮮やかに輝きます。四方には、富士山をはじめ、八ヶ岳、茅ヶ岳など、名だたる山々の雄姿。なかでも一際目を引くのが、残雪に輝く鳳凰三山です。

南アルプスの北端に位置する鳳凰三山は、地蔵ヶ岳（2764m）・観音岳（2841m）・薬師岳（2780m）の総称です。1500万年前に地下深部でマグマが固結して生成された花崗岩類で構成されており、岩塔や砂礫斜面など独特な地形と岩山が魅力です。これは、ちょうど日本列島のもとが大陸か



新府桃源郷

七里岩台地に広がる広大な桃畑。春ともなれば一斉に花が咲き誇り、訪れる人を魅了します。山梨は日本一の桃の産地。県内にはいくつもの桃源郷がありますが、新府は標高が高く、開花時期が遅いことで知られています。

ら離れて移動し、日本海が出来た頃の地層です。薬師岳周辺に見られる風化した花崗岩のマサ（※）もまた、非常に珍しい現象です。2014年、この鳳凰三山を含む赤石山脈が、「南アルプス生物圏保存地域」の名称で、ユネスコエコパークに登録されました。日本列島の成り立ちを今に伝える地質や、生物多様性に富んだ自然環境など、南アルプスにはさまざまな資産があります。新府桃源郷や甘利山、わに塚のサクラ、地蔵ヶ岳の山岳信仰も、その一部。未来につながるべき私達の大切な財産です。

※砂礫中の水が凍って持ち上げられ、氷が解けると移動する。これを繰り返すことにより地表面に現れる、多角形や網状など様々な模様を形成する構造土のこと。

甘利山のレンゲツツジ

標高1731メートル。南アルプス鳳凰三山の前衛で、山梨百名山のひとつに数えられています。山頂付近には、15万株とも言われるレンゲツツジの群生地があり、例年6月の開花時期には、一面朱色の絶景が広がります。また、市民団体であるNPO法人甘利山倶楽部は、環境教育活動や、草刈り、野鳥見学会といった自然保護活動を展開しています。



南アルプス ユネスコエコパーク

3000m級の山々を13座も有する「赤石山脈」を中心に、山梨、長野、静岡の3県10市町村にわたる総面積302.47ヘクタールの広大な地域が対象。国内屈指の多雨多湿地帯であり、顕著な森林垂直分布が見られるほか、氷河期の生き残りと言われるキタダケソウやライチョウを始めとする固有種や南限種が生息し、準平原や氷河地形も数多く残されているなど、豊かで貴重な手つかずの自然が広がっています。





名峰に抱かれし豊饒の大地

日照時間日本一と言われる茅ヶ岳山麓。緩やかな丘陵地帯に広がる穂坂果実郷では、水はけの良い大地と朝夕の気温差のある気候に恵まれ、糖度の高い果物が栽培されています。さくらんぼやりんご…季節ごとにさまざまな果物が味わえる穂坂ですが、なかでも盛んに作られているのが、ぶどう。丘陵を覆い尽くすぶどう棚で、巨峰やピオーネといった高級品種からワイン専用品種まで、幅広く栽培されています。一斉に芽吹く初夏は、見渡す限りが緑色に輝く、最も美しい季節。そして、暑さとともにやってくる豊穡のとき。



茅ヶ岳と深田久弥

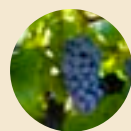
1971(昭和46)年3月21日、作家 深田久弥は、茅ヶ岳の山頂付近で脳卒中を起こして急逝しました。登山口付近の深田記念公園には、「百の頂に、百の喜びあり」の直筆の書が刻まれた深田久弥の文学碑があります。また、毎年4月には久弥の遺徳を偲ぶ「深田祭」と記念登山が行われて、多くの人が参加しています。



穂坂果実郷

き。ぶどうの葉が色づく頃には、ワインの仕込みも始まります。

そんな果実郷の営みを見守り続けてきたのが、山梨百名山のひとつ茅ヶ岳です。『日本百名山』の著者 深田久弥が最も愛した山とも言われ、標高1704メートルの山頂からは、南アルプスの雄大な山々が眺望できます。



穂坂町ぶどうる

穂坂から生まれたご当地ブランド

地域食品ブランド「穂坂町ぶどうる」は、穂坂町にある200軒のぶどう農家の「自分達の町をぶどうで元気にしよう!」という熱い思いから始まった「二大プロジェクト」。「ぶどうる」の名には、ジャワ語で「丘」を意味する「ブドール」と、「ぶどうをうる」という意味が込められています。地域力を結集して創り上げた、赤のスパークリングワイン「ヴァン穂坂」と、ジャム「ビジュード・穂坂」、コンポート「ソレイユード・穂坂」は、共に発売以来大好評。2014年のワイン特区認定を受け、次の展開にさらなる期待が高まります。



ヴァン穂坂



ソレイユード・穂坂



ビジュード・穂坂

夢をカナエル・カエル 〜美しい自然とともに

葦崎に広がる美しい風景は、たくさんの恵みをもたらしてくれる宝物。一人ひとりが意識を持って大切な自然を守るとともに、地域の発展にも上手に活用して、未来へとつなげていきたいね。





南アルプスの大自然を体感できるイベント「ヒルクライムチャレンジシリーズ葦崎甘利山大会」

夢と感動のテーマシティにらさき3

美しい景観を
未来に
つなぐ
まちづくり



豊かな自然との共生を目指して

豊かな自然に恵まれた葦崎市では、所有する森林を市民の健康作りや自然体験、自然教育などに活用してもらおうと、平成23年、穂坂町三ツ沢に「穂坂自然公園」を整備しました。隣接する山林では平成20年から森林整備が行われており、遊歩道や自転車散策道から里山として再生していく過程を観察できるほか、園内では工作教室などのイベントも常時開催しており、自然とたつぷりと触れあえます。

平成26年6月には、南アルプスがユネスコエコパークに登録されました。これは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和、即ち自然と人間社会の共生を目的としてユネスコがはじめた事業で、地域社会の発展を目指す取り組みです。葦崎は、構成10市町村の一つとなっており、これまでも甘利山クリーン大作戦やエコトレッキングの



甘利山クリーン大作戦

実施など、南アルプスを核とした周辺地域の保全と活用に取り組んできましたが、引き続き『自然と共生する持続可能な社会の世界的モデル』として世界遺産登録に向けて取り組んでいきます。



穂坂自然公園

先人の営みが創り出した美しい風景を 次世代へとつなぐ

「韮崎駅周辺地区社会資本総合整備計画」に基づいて進められてきた駅前の再開発は、平成23年にオープンした市民交流センター『ニコリ』をはじめ、駅前広場や観音山公園などの完成をもって終了しました。ニコリは、駅前にあったショッピングセンタールネスの建物を改装し、再利用したもので、コストを抑えるだけでなく地球環境保全の面でも理にかなった、非常に新しい考え方です。全国的にも珍しい駅前商業施設の再利用の成功例として、各方面から関心が寄せられています。

鍋山や下戸井の棚田、新府桃源郷、穂坂



再開発された駅周辺



駅前広場



美しい景観を残す水田地帯

のぶどう棚、そして七里ヶ岩台地の先端に広がる360度のパノラマ…。韮崎には、周囲を囲む山々を背景に、数え切れないほどの美しい景観が広がっています。その多くは、先人たちが工夫しながら生きて来た証であり、住民の日々の営みが形成してきた文化です。市ではこの景観を守り、次世代へとつなげていくために、市内全域を対象とした景観計画を策定しました。計画の目標でもある、「美しい自然と歴史文化を語る風景に心動かされるまち」を目指した取り組みが始まっています。

「ワイン特区」で広がる可能性と未来への活力

平成23年、中央道韮崎インターチェンジ西側地域に、「上ノ山・穂坂地区工業団地」が完成しました。都心より90分という交通アクセスの良さや工業団地に適した強固な地盤、さらには周辺環境の良さなどから、優良企業の誘致が順調に進み、新たな雇用も創出されています。

一方、農業については、全国の産地と同様、従事者の高齢化や後継者不足といった課題を抱えており、遊休地や耕作放棄地の増加も深刻になっています。市では、農業者育成支援事業を展開して後継者や新規就農者を応援してきましたが、新たな魅力を創出するため、平成26年、新たに「武田の里にらさきワイン特別区域」の認定を受けました。醸造免許の取得が容易にな

ることから、農家や果樹生産者にも、生産した果樹を使ったクオリティの高いワイン造りが可能となり、ワイン観光園などの事業展開も期待されます。穂坂町ぶどう「に次ぐ新たな地域ブランドの確立にも力を入れて行きます。



新たな活性化が期待される穂坂果実郷



上ノ山・穂坂地区工業団地

60年のあゆみ

「市制誕生・昭和30年代」

高度経済成長への離陸のごとく
誕生した市も今年で60周年。
皆様とともに歩んだ歴史を
振り返ってみましょう。



市開庁記念 昭和29年(1954)10月10日



市誕生 昭和29年(1954)



当時の市制誕生祝賀会
新聞社の取材ヘリコプターを待つ市民
昭和29年(1954)10月10日



祝賀会場の校庭に到着したヘリコプター



初代市長に浅川彦六氏当選(合併前市町長)



市消防団発足 昭和29年(1954)

TOPICS

市制誕生

昭和29年
1954

1町10ヵ村が合併し、
市誕生祝賀会を開催。

市は昭和29年10月10日、市、穂坂・藤井・中田・穴山・円野・清哲・神山・旭・大草・竜岡村の1町10ヵ村が合併して誕生しました。市誕生祝賀会は当時の市で開催され、校庭には「祝ニラサキ市」の文字が描かれました。当時はまだ珍しかった新聞社のヘリコプターも訪れ、大勢の市民が集い、祝いました。

お祝いムードに
つぎはまじりました



市誕生を記念してラジオ山梨の公開録音

昭和34年 (1959)	昭和33年 (1958)	昭和32年 (1957)	昭和31年 (1956)	昭和30年 (1955)	昭和29年 (1954)	年号
<ul style="list-style-type: none"> ● 鍋山・宇波円井・柳平・夏目・宮久保地区に簡易水道完成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市立病院一般結核病棟完成 ● 神山町武田道路新設完成 ● 市源線バス開通 ● 入野橋完成 ● デイゼル機関車おめえ ● 双葉町の一部を市に編入 ● 市上水道給水始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市出身元商工大臣小林一三氏死去 ● 市青少年総合対策本部設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回県下市山スキー大会開催 ● 財政再建団体に指定される ● 市庁舎完成 ● 穂坂中学校屋体完成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市連合婦人会結成 ● 穴山橋完成 ● 市財産区議会開催 ● 市中学校屋体完成 ● 市観光協会発足 ● 第1回市体育祭 ● 第1回市文化祭 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市誕生 ● 初代市長に浅川彦六氏就任 ● 市消防団発足 ● 市体育協会発足 ● 市民歌生まれる ● 峡北組合病院が市立病院となる ● 市青年団協議会発足 ● 市のマーク決まる ● 市上水道給水開始 	市のあゆみ

昭和30年代

1955
1964台風7、15号の災害と復興、
都市整備、教育施設の充実。

韮崎市庁舎完成は昭和31年。新しい都市整備が計画され、昭和33年には韮崎市立病院一般・結核病棟、神山町武田道路、入戸野橋が完成し、韮崎上水道の給水を開始。昭和34年の台風7号、15号は大災害をもたらし、市民生活は混乱。復興後、昭和36年に武田橋、桐沢橋、市営グラウンド、昭和38年には韮崎東中学校校舎が完成しました。

S
レ
カ
ッ
コ
イ
な
あ

昔なつかしいスイッチバックの頃の韮崎駅



神山小学校の弁当の時間 昭和31年(1956)



平和観音開眼 昭和36年(1961)



第1回県下甘利山スキー大会 昭和31年(1956)

台風の強襲で濁流に押し流される
韮崎中学校付近 昭和34年(1959)

東京オリンピックの聖火が市内を通過 昭和39年(1964)



本町の復旧作業 昭和34年(1959)

昭和39年 (1964)	昭和38年 (1963)	昭和37年 (1962)	昭和36年 (1961)	昭和35年 (1960)	
<ul style="list-style-type: none"> ● 韮崎高校火災 ● 穂坂橋完成 ● 甘利山自動車道完成 ● 南アルプス国立公園指定 ● 韮崎高校女子弓道部新潟国体で優勝 ● 韮崎東中学校体育館完成 ● 楯無堰の改修工事完成 ● 中央線電化 ● 東京オリンピック聖火市内通過 ● 本町下水路幹線・下町支線完成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 韮崎東中学校校舎完成 ● 県立韮崎工業高校開校 ● 新府地区がパイロット地区に指定 ● 浅川彦六氏を名誉市民に推挙 ● ヘリコプターで農薬散布 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日之城簡易水道完成 ● 第3代市長に横内要氏就任 ● 坂井養蚕組合天皇杯を受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ● 武田橋完成 ● 市営プール開設 ● 青木簡易水道完成 ● 平和観音開眼 ● 市営グラウンド完成 ● 桐沢橋完成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 韮崎市商工会設立 ● 静心寮完成 ● 韮崎市文化協会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風7号強襲、死者9人、行方不明者11人、罹災者5667人、損害見積額17億6044万9000円 ● 台風15号も荒れ狂う、死者1人、罹災者5336人、損害見積額2億928万6000円

60年のあゆみ「昭和40年代」



葦崎小学校の給食の時間
昭和43年(1968)3月



5月の完成を目指し建設中の市民会館 昭和41年(1966)



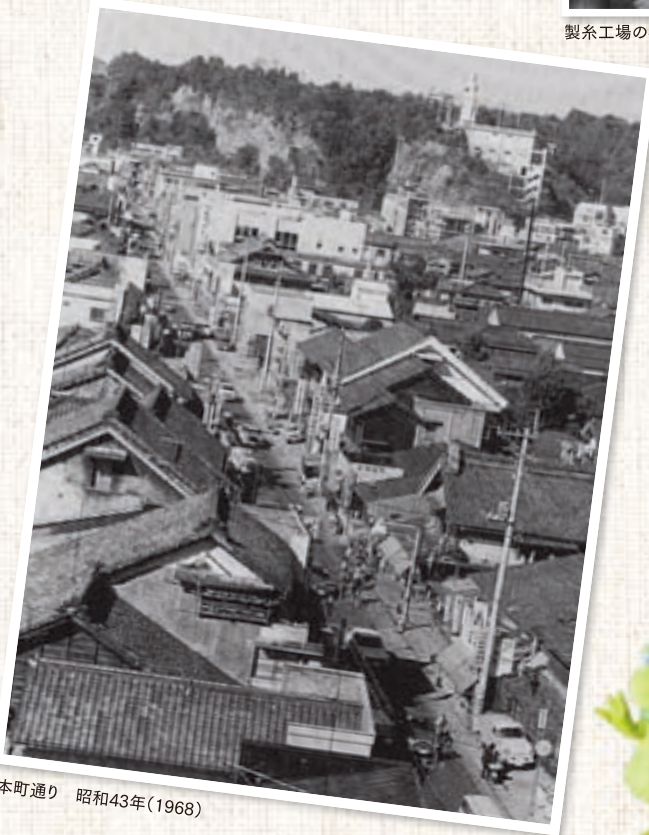
製糸工場の様子 昭和40年頃



ドウの箱づめ 昭和41年(1966)7月



「柳原神社」秋祭り 奉納相撲 昭和41年(1966)10月



本町通り 昭和43年(1968)

街並みもすっかり
変わったなあ



TOPICS

昭和40年代

1965
~
1974

葦崎市民会館が完成、
市民憲章の制定。

昭和43年、葦崎西中学校が開校。また、葦崎高校サッカー部は福井国体で全国優勝。昭和44年、市制施行15周年を記念して「葦崎市民憲章」制定。第1次長期開発計画も策定され、産業の発展、市民福祉の向上が目指されました。市営住宅や簡易水道事業が進展し、昭和47年に甘利山ツツジライン、昭和49年には徳島堰改修事業が完了しました。

昭和45年 (1970)	昭和44年 (1969)	昭和43年 (1968)	昭和42年 (1967)	昭和41年 (1966)	昭和40年 (1965)
<ul style="list-style-type: none"> ● 峡北地区消防組合発足 ● 第1回ロードレース大会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 青少年のための市民会議誕生 ● 葦崎西中学校校舎完成 ● 市民交通傷害保険スタート ● 葦崎市老壮大学の設立 ● 葦崎市民憲章制定 ● 葦崎駅舎完成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 葦崎バイパス開通 ● 福井国体で葦崎高校サッカー部全国優勝 ● 穴山小学校屋体完成 ● 穴山保育園完成 ● 市の花「ツツジ」、市の木「シラカバ」制定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用促進住宅葦崎宿舍完成 ● 地籍調査事業始まる ● 市水害予防デー生まれる ● 中田小学校屋体完成 ● 市営東プール完成 ● 国体高校サッカーで葦崎高校準優勝 	<ul style="list-style-type: none"> ● 葦崎中、甘利中が統合、葦崎西中学校として開校 ● 葦崎衛生センター完成 ● 第1回信玄公まつり開催 ● 葦崎市民会館完成 ● 大草小学校校舎完成 ● 上ノ山簡易水道完成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 葦崎市農協誕生(11農協の合併) ● 旭町に県立北病院建設 ● 円野小学校屋体完成



札幌オリンピック冬季大会 聖火の分火
昭和47年(1972)1月



姉妹都市締結
フェアフィールド市を訪問
昭和46年(1971)10月



福井国体で葦崎高校サッカー部が全国優勝 昭和43年(1968)



市営総合運動場 昭和49年(1974)



葦崎市老壮大学の創立式典 昭和44年(1969)



市制施行20周年記念式典 昭和49年(1974)



お盆の帰省風景 昭和49年(1974)



さようなら蒸気機関車 昭和48年(1973)

昭和49年 (1974)	昭和48年 (1973)	昭和47年 (1972)	昭和46年 (1971)	
<ul style="list-style-type: none"> ●市営火葬場完成 ●乳児保育所開設 ●葦崎市献血推進協議会発足 ●徳島堰改修事業完了 ●勤労青少年スポーツセンター完成 ●竜岡保育園移転改築完成 ●市民運動場完成 	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回新春市政を語る会を開催 ●葦崎市土地開発公社設立 ●北巨摩農業共済組合が発足 ●老人・ゼロ歳児医療費無料化 ●ゴミ処理場・峡北福祉センター完成 ●穂坂保育園移転改築完成 ●新府城跡、国の史跡に指定される ●第1回健康まつり開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●札幌オリンピック聖火を葦崎市で分火 ●有線による「市役所だより」放送開始 ●甘利山ツツジライン完成 ●一坪図書館開館(市内9館) 	<ul style="list-style-type: none"> ●峡北消防組合庁舎完成 ●(財)葦崎市開発公社設立 ●日之城に集団赤痢発生(150人) ●中央道インターチェンジ穂坂町に決まる ●新府パイロット事業完成 ●峡北広域市町村圏設定(葦崎市ほか9町村) ●伝染病隔離病舎完成 ●フェアフィールド市と姉妹都市を締結 ●市立病院管理棟が完成 	<ul style="list-style-type: none"> ●葦崎市誌編纂開始

60年のあゆみ
[昭和50年代・60年代]

TOPICS

昭和50年代

1975
1984蕪崎駅前広場が完成、
中央自動車道が開通。

昭和51年、蕪崎駅前広場完成、中央自動車道開通、昭和52年、茅ヶ岳広域農道も完成し、交通の高速化が進展。保育・学校教育、また、社会教育・社会体育の拡充が図られました。昭和53年の蕪崎北西小学校開校をはじめ、各地区に保育園、公民館が設けられ、昭和55年には市営総合運動場体育館、民俗資料館も開設。甘利小学校開校は昭和58年のことです。



蕪崎駅前広場完成 昭和51年(1976)4月



民俗資料館完成 昭和55年(1980)



市制祭 昭和51年(1976)

円野・清哲・神山小学校を統合し蕪崎北西小学校が開校
昭和53年(1978)4月

中央自動車道甲府昭和—蕪崎間が開通 昭和55年(1980)3月

中央道が
つながって
便利になったよ

円野保育園・円野地区公民館が完成 昭和54年(1979)4月

昭和50年 (1975)	昭和51年 (1976)	昭和52年 (1977)	昭和53年 (1978)	昭和54年 (1979)	昭和55年 (1980)	昭和56年 (1981)
<ul style="list-style-type: none"> ●市民運動場、御勅使サッカー場完成 ●全国高校総体(サッカー・登山を本市で開催)で蕪崎高校サッカー部優勝 	<ul style="list-style-type: none"> ●蕪崎駅前広場完成 ●し尿処理場完成 ●甘利山グリーンロッジ完成 ●中央自動車道蕪崎—小淵沢間開通 	<ul style="list-style-type: none"> ●蕪崎東保育園完成 ●甲州軍団出陣に本市初参加 ●甘利山グリーンロッジオープン ●御勅使公園完成 	<ul style="list-style-type: none"> ●蕪崎北西小学校開校 ●蕪崎市婦人大学の設立 ●長野県高遠町からコヒガン桜10本の寄贈を受け、蕪崎駅前広場に植樹 ●第7代市長に内藤登氏就任 	<ul style="list-style-type: none"> ●蕪崎市誌全巻発刊 ●船山橋架替完成 ●第1回生涯学習推進の集いを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●蕪崎高校サッカー部第58回全国高校サッカー選手権大会で準優勝 ●民俗資料館完成 ●市営総合運動場体育館完成 ●第1回武田の里マラソン大会開催 ●中央自動車道甲府昭和—蕪崎間開通 	<ul style="list-style-type: none"> ●老人福祉センター完成 ●中田保育園完成 ●深田久弥碑(茅ヶ岳山麓)除幕 ●第1回サッカーフェスティバル開催 ●生涯学習都市宣言 ●市立病院新病棟完成



七里岩トンネル開通
昭和61年(1986)



第61回全国高校サッカー選手権大会
葦崎高校が2年連続準優勝 8年連続23回出場
昭和58年(1983)1月



台風18号で塩川堤防が決壊 昭和57年(1982)9月



姉妹都市フェアフィールド市より贈られた友好の水鳥像
の除幕式が行われた 昭和63年(1988)6月



天皇陛下が「かいじ国体」のサッカー競技をご覧になられる
昭和61年(1986)10月



「かいじ国体」山岳競技
昭和61年(1986)10月



「かいじ国体」サッカー競技 昭和61年(1986)10月



TOPICS

昭和60年代

1985
〜
1989

七里岩トンネル開通、 「かいじ国体」開催。

昭和60年、一般国道20号線バイパス(葦崎市—双葉町)完成。葦崎中央公園陸上競技場兼サッカー場完成。昭和61年、七里岩トンネル開通。穴山橋完成。都市整備も充実し、花いっぱい運動も展開され、第41回国民体育大会「かいじ国体」が開催されました。葦崎市はサッカー、クレイ射撃、山岳競技の会場として全国から大勢の方をお迎えしました。

昭和63年 (1988)	昭和62年 (1987)	昭和61年 (1986)	昭和60年 (1985)	昭和59年 (1984)	昭和58年 (1983)	昭和57年 (1982)
<ul style="list-style-type: none"> ● 葦崎市とフェアフィールド市の高校生交換留学始まる ● 住民基本台帳をOA化 ● 第1回全国スポーツレクリエーション祭の壮年サッカー、武田の史跡ウォーキングが本市で開催される 	<ul style="list-style-type: none"> ● 葦崎中央公園野外音楽堂完成 ● 葦崎市「福祉の日」制定記念式典・第1回福祉の日記念まつり開催 ● 武田信義公八百年追悼記念「武田の里資料展」開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 七里岩トンネル開通 ● 穴山橋完成 ● 第41回国民体育大会(かいじ国体)本市はサッカー競技、クレイ射撃、山岳競技を担当(が)開催 ● 天皇陛下がかいじ国体のサッカー競技をご覧になられる ● 第22回全国身体障害者スポーツ大会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般国道20号線バイパス(葦崎市—双葉町)完成 ● 葦崎中央公園陸上競技場兼サッカー場完成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新市庁舎完成 ● 中国黒竜江省佳木斯市と友好都市締結 ● 神山町体育館完成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第61回全国高校サッカー選手権大会で葦崎高校準優勝 ● 甘利小学校開校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第60回全国高校サッカー選手権大会で葦崎高校準優勝 ● 葦崎小学校屋体完成 ● 台風10号本市を襲う ● 甘利沢下橋完成

60年のあゆみ「平成元年代」



中央公園ミニSL開設 平成2年(1990)

藤井・中田・穴山小学校を統合し韮崎北東小学校が開校
平成2年(1990)9月5日第1回武田勝頼公新府入城祭り
平成元年(1989)10月10日

桐沢橋の開通式 平成5年(1993)

TOPICS

平成元年代

1989
～
1997デイサービスセンター、
文化ホールがオープン。

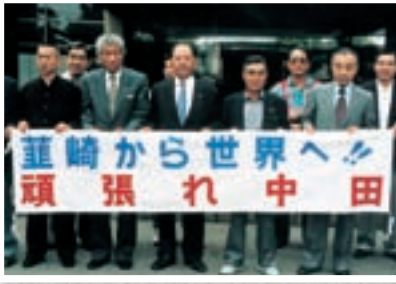
教育・福祉・文化の向上を目指し、平成2年、韮崎北東小学校開校。平成4年、大草デイサービスセンター「こぶし荘」。平成7年、文化ホール。平成9年、北東児童センターなどが完成しました。平成8年にはフェアフィールド市姉妹締結25周年で親善使節団が派遣され、イベントに登場した武田軍団は現地で話題を集めました。

フェアフィールド市との姉妹都市締結20周年 市民代表30名が親善訪問
平成3年(1991)8月21日第5回全国健康福祉祭・ねんりんピックやまなし大会
韮崎中央公園陸上競技場でサッカー交流大会
平成4年(1992)第3回山梨県スポーツ・レクリエーション祭
韮崎中央公園 平成3年(1991)

平成4年 (1992)	平成3年 (1991)	平成2年 (1990)	平成元年 (1989)
<ul style="list-style-type: none"> ● 財務会計オンラインシステム稼働 ● 市役所出張所(穂坂・中田・穴山・円野)廃止 ● 「にらさき文化村」オープン ● ブラジル・カルモ・ド・パラナイバ市農業使節団来市 ● デイサービスセンター「こぶし荘」完成 ● 第5回全国健康福祉祭(ねんりんピック)やまなし大会でサッカー交流大会を本市で開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 常住人口3万人を達成 ● 峡北広域シルバー人材センターがオープン ● 旭体育館完成 ● フランス・アヌシー市からサッカーチームが来市、中学校選抜チームと親善試合を行う ● 姉妹都市締結20周年を記念し、米国フェアフィールド市を30人の親善使節団が訪問 ● 峡北地方勤労青年センター完成 ● 第3回山梨県スポーツレクリエーション祭を本市で開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 竜岡体育館完成 ● 塩川ダム起工 ● 韮崎北東小学校開校 ● 第1回生涯学習フェスティバル開催 ● 韮崎中央公園にミニSLを開設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市の木「コブシ」、市の鳥「チョウゲンボウ」の制定 ● 火葬場大改修行われる ● 第1回武田勝頼公新府入城祭り開催 ● グライダー「鳳凰」購入、市航空協会に貸与 ● 釜無川河川緑地整備完成

60年のあゆみ

『平成10年代』



葦崎高校出身の中田選手がサッカーワールドカップ・フランス大会に出場 平成10年(1998)



健康ふれあいセンター「ゆへぶるにらさき」・道の駅「にらさき」オープン 平成10年(1998)10月2日



戸籍のコンピュータシステム稼働後1番目の市民 平成10年(1998)12月21日



塩川地区県営園場整備事業が完工 平成11年(1999)6月26日

TOPICS

平成10年代

1998
~
2007

周辺市町村の合併が進む中、市制50年の節目を迎える。

21世紀を迎えた平成10年代、山梨県は合併の動きが盛んになりました。周辺市町村が次々に合併していくなか、葦崎市は合併することなく50周年の節目を迎えました。市制50年の歴史を大切にしながら、未来へのステップを着実に踏んでいく発展の10年になりました。



葦崎東中学校新校舎完成 平成13年(2001)



石之坪遺跡(円野町)から出土 平成11年(1999)

平成13年 (2001)	平成12年 (2000)	平成11年 (1999)	平成10年 (1998)
<ul style="list-style-type: none"> ● 葦崎東中学校新校舎完成 ● 穴山デイサービスセンター「なごみの郷」完成 ● 第1回武田の里ウォーク開催 ● 大村智氏を名誉市民に推挙 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回にらさきの四季フォトコンテスト開催 ● 葦崎ヒューマンフォーラム2000開催 ● 「市民バス」運行開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昭和57年度に着工した塩川地区県営園場整備事業が完工 ● 地域振興券交付事業を開始 ● 甘利児童センター、保健福祉センター、在宅介護支援センター完成 ● 円野町石之坪遺跡から縄文時代中期のものと思われる人の顔に似た土偶の一部が出土 ● 市制施行45周年・友好都市締結15周年記念式典に中国佳木斯市より使節団来市 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1月8日〜16日の大雪により市内全域に甚大な被害を受け、(家屋の損壊65戸、農業施設358件、工場の倒壊9件など)これにより雪害緊急対策事業、災害見舞金制度を創設 ● 市立病院創立50周年 ● 葦崎高校出身中田英寿選手サッカーワールドカップフランス大会(本大会)に日本代表として出場 ● 健康ふれあいセンター「ゆへぶるにらさき」・道の駅「にらさき」がオープン ● 第12代市長に小野修一氏就任



葦崎小学校新校舎完成 平成16年(2004)



中央線開業100周年記念式典 平成15年(2003)



葦崎児童センターがオープン 平成16年(2004)



山本周五郎生誕100年記念展 平成15年(2003)



葦崎大村美術館開館 平成19年(2007)



葦崎市が
50周年を迎えたよ



市制施行50周年記念式典 平成16年(2004)

平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	平成16年 (2004)	平成15年 (2003)	平成14年 (2002)	平成13年 (2001)
<ul style="list-style-type: none"> ●市営若尾住宅完成 ●風林火山博が開催(甲府市)され、葦崎市のコーナーを設置 ●葦崎大村美術館開館(平成20年10月からは市立美術館に) 	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ホールにネーミングライツ導入(東京エレクトロン) ●第14代市長に横内公明氏が就任 ●市内全域に光ファイバー網敷設完了 	<ul style="list-style-type: none"> ●葦崎小学校新校舎完成 ●ヴァンフォーレ甲府J1に昇格 	<ul style="list-style-type: none"> ●葦崎児童センター完成 ●市制施行50周年記念式典及び各種イベントが盛大に行われる 	<ul style="list-style-type: none"> ●葦崎駅開業百周年記念式典開催 ●アイドリングストップ条例制定 ●山本周五郎生誕百年記念事業開催 ●峡北広域環境衛生センター完成 	<ul style="list-style-type: none"> ●大草ふれあいセンター完成 ●北西児童センター完成 ●葦崎市環境基本条例制定 ●葦崎市環境基本計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ●葦崎スポーツクラブ発足 ●昭和63年度に着工した円野地区県営園場整備事業が完工 ●葦崎東中学校屋内運動場・プール完成

60年のあゆみ「平成20年代」



絵本「ニーラ」贈呈式 平成21年(2009)

絵本「ニーラと花のようせい」発刊
平成26年(2014)絵本「ニーラ」
平成21年(2009)

第1回こども議会開催 平成20年(2008)

ライフガーデンにらさきオープン
平成21年(2009)

地域情報発信センター



子育て支援センター



市立図書館

ニーラとニコリが
誕生したよ

葦崎市民交流センター「ニコリ」オープン 平成23年(2011)

TOPICS

平成20年代

2008
5「夢と感動のテーマシティにらさき」
新プロジェクトが次々に始動。

平成21年、第6次総合計画が策定され「夢と感動のテーマシティにらさき」をキャッチフレーズに、快適で活力ある都市を目指す葦崎市の新たな歩みが始まりました。市のキャラクター「ニーラ」の誕生、サッカーのまちプロジェクト、葦崎ブランドの開発、まちなか活性化事業など、葦崎を元気にする試みが次々に始動し、現在も進化を続けています。

平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)
<ul style="list-style-type: none"> ● 武田の里プロジェクト事業により「武田の里」を商標登録 ● 「葦崎百選」を選定 ● 第1回こども議会開催 ● 第1回甘利山クリーン大作戦を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第6次長期総合計画策定 ● 太陽光発電採用の葦崎西中学校完成 ● 葦崎ブランド第1弾「穂坂町ふるさと協議会(穂坂町ぶどう)」「ヴァン穂坂」を発表 ● 葦崎駅前大型SC「ライフガーデンにらさき」オープン ● 絵本「ニーラ」発刊 ● 「34年災害から50年」防災シンポジウム開催 ● イギリス大英博物館で開催の「THE POWER OF DOG」に本市出土の縄文中期の土偶2点(坂井・後田遺跡)が出演 ● 市制施行55周年記念式典・アザリア記念会特別企画展開催 ● 市の木「さくら」に制定、市の花は「レンゲツツジ」に。 ● 葦崎ブランド第2弾、穂坂町ぶどうの「宝石みたいなジャム」『ビジュード穂坂』発表 	<ul style="list-style-type: none"> ● サッカーのまちプロジェクトを実施 ● こころのプロジェクト「夢教室」を開催 ● ヴァンフォーレ甲府サッカー教室開催 ● ニーラキャラクター展開本格始動 ● 甘利山グリーンロッジリニューアルオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東日本大震災 ● 穂坂自然公園がオープン ● 市立図書館・子育て支援センター・地域情報発信センター



ヒルクライムチャレンジシリーズ韮崎甘利山大会 平成24年(2012)



のれんのあるまちなみづくり事業
平成23年(2011)



韮崎駅前広場リニューアル 平成26年(2014)



グリーンフィールド穂坂に人工芝サッカー場
オープン 平成24年(2012)



青坂バイパス開通 平成24年(2012)



小林一三生誕140周年として行われた
武田の里にらさき・ふるさとまつり
平成25年(2013)



南アルプススヌスコエコパーク登録 平成26年(2014)



韮崎中央公園に韮崎スポーツクラブのクラブハウス新設
平成25年(2013)

平成26年 (2014)	平成25年 (2013)	平成24年 (2012)	
<ul style="list-style-type: none"> ● 韮崎駅前広場リニューアル ● 南アルプススヌスコエコパーク登録 ● 全国高校総体サッカー競技開催 ● 武田の里にらさきワイン特別区域の認定 ● 絵本「ニラと花のようせい」発刊 ● 市制施行60周年記念式典 ● 第16代市長に内藤久夫氏就任 	<ul style="list-style-type: none"> ● 旧新府中跡地のソーラー発電所、起工式 ● 穴山町出身で童謡「たなばたさま」を作詞した童謡詩人、権堂はなよ氏の詩歌碑除幕式 ● 国民文化祭で5つの主催事業を開催（サッカーフェスティバル・スポーツ文化シンポジウム） ● 小林一三・保坂嘉内の世界展「文芸祭『漢詩』『邦楽の祭典』『日本舞踊の祭典』」 ● 武田の里にらさき・ふるさとまつりが小林一三翁生誕140周年記念として開催され、多くの特別イベントで賑わう ● 韮崎中央公園に韮崎スポーツクラブのクラブハウスを新設、芝生広場もリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 青坂バイパス開通 ● グリーンフィールド穂坂に人工芝サッカー場オープン ● U3親子サッカーフェスティバル開催 ● ヒルクライム韮崎甘利山大会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 報センターなどを備えた、韮崎市民交流センター「ニコリ」がオープン。 ● 韮崎平和観音建立50周年記念事業を開催 ● のれんのあるまちなみづくり事業を実施



深田久弥碑
(深田記念公園)

茅ヶ岳 1703.6m
山梨百名山
ボッチ峠



カントリークラブ
グリーンパレイ

穂坂自然公園

甲斐ヒルズ
カントリー倶楽部

市章

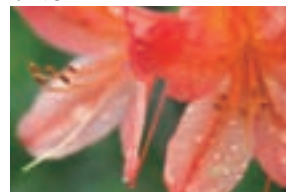
中央の割り菱は、葦崎市にゆかりのある武田菱の紋章を配し、郷土の歴史の意匠を表しています。「葦」は非ずという否定的文化を排し、カタカナ文字で「う」を二つ抱き合わせて円満な和合を表し、「葦」を意味します。両側のハネは飛躍を表し、「崎」を意味します。(昭和30年9月21日制定)



市の鳥・市の花・市の木



市の鳥 チョウゲンボウ (平成元年4月制定)



市の花 シンゲツサクラ (平成21年10月制定)



市の木 さくら (平成21年10月制定)

ニーラ

平成21(2009)年に登場した葦崎市のイメージキャラクター。ニーラは神さまのお使いで、夢をかなえる不思議なカエル。各種キャンペーンで活躍するほか、YouTubeにて動画配信。



Map of the area around Mount Fuji, showing the route from the entrance of Aomori Prefectural University to the summit. The map includes the following locations and features:

- Mount Fuji (富士山):** The iconic mountain peak in the background.
- Cherry Blossom Tree:** A large, blooming tree in the foreground.
- Map Labels:**
 - 鳳凰三山 (Hōhō Sanzan)
 - 御座石温泉 (Gozaiishi Onsen)
 - 青木鉱泉入口 (Aoki Kōsen Iriguchi)
 - 宗泉院 (Sōsuen-in)
 - 竜珠院 (Ryūshū-in)
 - 平川峠 (Hirakawa Tōge)
 - 荒倉山 (Aikura-san) 1132m
 - 唐沢橋 (Karakasa Bridge)
 - 円井逆断崖 (Eni-ai Gyakudan)
 - かかし の 里 (Kakashi no Sato)
 - 午頭島公園 (Gutōjima Kōen)
 - 六山峠 (Rokusan Tōge)
 - 上米沢 (Umemisawa)
 - 三ツ峠 (Mitsutōge)



Nirasaki MAP



夢を紡ぐ^{つむ}
韮崎で紡がれた物語は、
未来の夢を織りなしていく。



60th Anniversary
市制施行60周年記念
韮崎市勢要覧

夢と感動のテーマシティにらさき

美しく、人・地域が輝く 未来へのものがたり

発行：韮崎市

〒407-8501 山梨県韮崎市水神一丁目3番1号 TEL.0551-22-1111 (代)

平成27年3月 発行 企画・制作：株式会社サンニチ印刷



この印刷物は環境にやさしいVOC(揮発性有機化合物)成分
フリーの植物油インキを使用して印刷しました。

